

令和4年新年市民祝賀会市長挨拶

新年明けましておめでとうございます。謹んで新春のお慶びを申し上げます。御参会の皆様におかれましては、新たな希望を胸に、穏やかな新春をお迎えになられたことと存じます。

市民の皆様におかれましては、市政各般はもとより、長期に渡る新型コロナウイルス感染回避活動に御理解、御協力賜っておりますことに深謝申し上げます。また、医療従事者の皆様ならびに感染症対策の最前線で御尽力いただいている全ての皆様に対しまして、心から敬意を表しますとともに感謝を申し上げます。本当に、いつもありがとうございます。

さて、西条市長として二期目の重責を担わせていただくこととなり、早いもので1年余が経過いたしました。長期化する新型コロナウイルス感染症の対策に追われながらも、アフターコロナ、そして、将来世代を見据えたまちづくりに全力で取り組んでいくところでございます。

そのまちづくりの根幹となりますのが「第2期西条市総合計画後期基本計画」で、達成目標に掲げたのが、「みんなで実現しよう！持続可能な西条市（西条市SDGsの推進）」です。

本市は、豊かな自然環境の中にあって、ものづくり産業や農業に代表されるように産業活動が盛んなまちではありますが、人口減少や少子高齢化が加速するなか、「経済・社会・環境」これら三側面で多くの課題を抱えておりまして強い危機感を抱いているところでござ

います。

これら三側面を有機的につなぎ、課題解決を目指す統合的な取組が内閣府から認められ、SDG s 達成のため積極的に取り組む都市として「SDG s 未来都市」に、合わせて先導的な事業提案として「自治体SDG s モデル事業」が昨年5月に選定されております。

市民の皆様や企業・団体とも共創、共に創りながら、人と活動が好循環を生む「持続可能なまち西条市」の実現に向けて、引き続きチャレンジしてまいりたい、このように思っておりますので、皆様の御協力をよろしくお願いいたします。

また、一昨年もこの場で御紹介をさせていただきましたが、本日発売されました宝島社出版の『田舎暮らしの本』2月号の特集「第十回住みたい田舎ベストランキング」におきまして、西条市は人口五万人以上二十万人未満のまちにおいて、住みたい田舎ベストランキング若者世代・単身者部門で全国1位を獲得することができました。

若者世代が住みたい田舎部門としては3連覇の快挙でございます。引き続き、本市の魅力を市内外に情報発信しながら、活動人口、市内在住者、移住者そして関係人口を加えまして、その拡大に努め、人口減少社会の中にあっても地域活力の維持・向上に繋げてまいりたいと考えております。

本市は、令和6年11月、市政20周年の節目を迎えることとなりますが、合併当初から今日まで先送りされてきた課題は山積しております。

私自身の市政への思いは、将来世代へ確かな未来を残すための「ま

ちづくり」に強い推進力と覚悟を持って取り組んでまいりたいと考えています。

また、「残すべきもの」と「変えるべきもの」を判断し、持続可能なまち西条として、次世代を担う子や孫世代にバトンを繋いでいかなくってはなりません。このことは、今を生きる私たち大人の責任でもあります。だからこそ、耳障りな話もしてまいります。

未来(あす)への方向を決める為に大汗を流す覚悟で挑んでまいります。市民の代表である市議会の先生方は勿論のこと、市民の皆様におかれましても「利他の心」を持って前向きな提言をお寄せ頂きますよう御期待申し上げます。

結びに、市民の皆様にとって令和4年が健康で幸多き一年となりますよう心からお祈り申し上げます、新年の御挨拶といたします。

令和4年、今年もどうか、よろしく願いいたします。

令和4年1月4日

西条市長 玉井 敏久